

災害支援への取り組み

No.	大学名	問8（学生への支援）	問9（医療支援活動）	問10（学生ボランティア活動）	問11（薬剤師ボランティア活動）	問12（その他の支援活動）
1	北海道大学大学院生命科学院生命医薬科学コース	本学部では少人数担任制を敷いているので、被災地出身の学生に対しては担任教員が個別の相談に応じるなどで、学生が修学を続けられるよう支援している。大学全体で「東日本大震災学生支援センター」を設置し、奨学支援や精神衛生相談を行っている。	北海道大学は行政機関である「北海道」の要請をうけて「岩手県」・「岩手医科大」の協力の下で、3月18日から5月11日まで、大学病院医療チーム（医師2名、薬剤師1名、看護師2名、事務職員2名）を陸前高田市長部地区に派遣した。ほぼ1週間交代で約10班にチームを編成し、各班に1名の北海道大学病院勤務薬剤師を組み込んだが、その内の2名を薬学研究所所属の助教（臨床教員：北海道大学固有の呼称、薬学研究院に在籍しながら、外来調剤室、医薬品管理、手術場における麻酔薬調製等々の業務を支援している。週1-2回程度）が担当し、医療チームのメンバーとして北大病院から被災地へ派遣された。現在では、北海道大学病院が医療活動を行った陸前高田市長部地区は、北海道内の自治体病院に引継がれ、最終的には地元の自治体病院に移行する予定である。 さらに、今回の災害派遣では、被災地に向いた医療者のみならず、留守を預かった病院薬剤部の業務も影響をうける事になり、そちらの方への業務支援は、薬学部にも所属する「実務家教員」が調剤業務支援、DI業務支援、抗がん剤混合調製業務支援を行うことで、学内の医療施設でのチーム医療に有形無形の協力を行った。 チーム医療の重要性・必要性が叫ばれる中で、今回のように薬学部の教員が病院の医療チームの一人として実際に参加できたことは、新たな薬学教育が完成年度を迎える中で、極めて社会的に重要な経験を積むことができたと思われる。 緊急医療・災害医療に薬学関係者が貢献しようとするとき、ともしばれば薬剤師だけが被災地へ行き、「ボランティア的活動」をしたことがクローズアップされがちであるが、医療を提供する「医療チーム」のメンバーとして如何に責任分担を担うかと言うことが重要である。今回のように大規模で広範囲に渡る災害では、未だ復帰の方向性さえ定まっていない状況で、単に「行った！見てきた！大変だった！」と騒ぐことだけは厳に慎まなければならないと考える。	薬学部や大学全体としてボランティアを派遣した実績はないが、ボランティアを希望する学生については、大学全体の方針で、「ボランティア活動届」及び「欠席届」を各学部提出するよう求めており、様々な危険を伴うことから、任意ではあるが事前にボランティア保険（地震・津波等の天災の場合でも適用されるもの）への加入を求めている。	前述したように、「医療チーム」として参画することが重要であると考えているので、直接災害地へ、教員を派遣することはしていない。	薬学部（学生含む）や学内教職員で募金活動を実施し、約17,200千円（うち薬学部約780千円）の義援金を、日本赤十字社を通じて被災地に贈った。
2	北海道薬科大学	・実家家屋が全壊・半壊の学生の平成23年度学費全額免除及び一時金15万円支給 ・実家家屋が一部損壊の学生の平成23年度学費半額免除及び一時金5万円支給	・被災地支援活動へ教員（薬剤師）2名の派遣 ・日本臨床心理士学会の要請をうけて、心理臨床活動（ボランティア）に臨床心理士1名が従事	・学生1名がゴールデンウィーク中にボランティア参加	・前述（問9）	・学生、教職員による義援金の募金活動
3	北海道医療大学薬学部	学生に対して、以下のような支援策を実施。 ・学納金の納付期日の延長。 ・本学奨学金制度の弾力的運用 ・被災地出身学生の帰省費用の一部補助 ・「学生援助資金」の特別貸与など	各職能団体・地方公共団体等からの要請により、大学から、医師・歯科医師・保健師・薬剤師を派遣した。	学生ボランティア活動について、所定の要件を満たした場合について、単位として認定することとし、実施要領を策定した。	職能団体からの要請により、薬剤師（教員）を派遣した。	
4	東北薬科大学	・本学は避難先の指定を受けてはいなかったが、避難場所として校舎を提供（3月末まで） ・入学金、授業料等の減免制度	・数名の教員（薬剤師）が被災地の病院を拠点にして、避難所等への薬剤師ボランティアを行った。	・震災後から、授業開始時までに行われた学生のボランティア活動状況について、現在調査中である。	（問9に記載）	
5	東北大学大学院薬学研究科	大学として奨学金の支援	1. 被災地の臨時診療所での調剤業務の支援 2. 避難所の巡回と被災者へのセルフメディケーション支援・衛生管理と指導	問9への回答	問9への回答	大学が実施している放射能測定への支援
6	新潟薬科大学薬学部	・本学の授業料減免規定に則り、自然災害で被災した場合の授業料免除を受ける。 ・教職員による被災学生を対象とした義捐金の募金を行う。		・新潟県内での避難所におけるボランティア活動を行った。 ・震災直後に学生団体である「校友会」が中心となって、大学周辺の駅ターミナルや大型スーパーで義捐金の募金活動を行った。	新潟県薬剤師会が組織する薬剤師ボランティアチームへ3名の実務家教員が参加し、宮城県内の医療施設や避難所で、医薬品の仕分けを中心とした3泊4日のボランティア活動を行った。	
7	東京大学大学院薬学系研究科			事務を通じ、学生ボランティア活動への参加に関する情報を、電子メール、掲示によって、広く学生に通知した。		震災で大きな被害を受けた大学の研究者に対し、一時的に設備を共有するなどのサポートを個々の研究室レベルでおこなった。
8	東京薬科大学薬学部	(1) 東京薬科大学災害奨学金（減免） 今回震災の対象地域に保証人または学費負担者が居住し、今回の地震により家屋が全壊または半壊した世帯を対象とする。 全壊：授業料及び施設費の全額を減免 半壊：授業料及び施設費の半額を減免 (2) 東京薬科大学災害奨学金（貸与） 今回震災の対象地域に保証人または学費負担者が居住し、今回の地震により家屋が一部損壊した世帯を対象とする。授業料及び施設費の全額または半額を無利子貸与する。 (3) 東京薬科大学緊急支援奨学金（給付） 学費負担者の住居が全壊、半壊、一部損壊、避難所生活、失職などにより経済的な支援を必要とするものを対象に、最高で年間60万円を限度に給付する予定である。 また一時金（見舞金）として学費負担者の住居が全壊、半壊、一部損壊、避難所生活を送っている場合、10万円～30万円の一時金を支給する。 これまでに10万円を19名、20万円を3名、30万円を2名に贈っている。	本学薬学部松本有右教授が、岩手県陸前高田市にて東京都医療チームの薬剤師班として数回にわたり活動を行っている。	個人でボランティア活動を行っている学生がいる。 学生を支援する学内の委員会では、グループにてボランティアに行く学生に対して支援を行う予定がある。（交通費、保険代等）		大学の取り組みとして「東京薬科大学東日本大震災被災学生緊急支援奨学金」による募金活動を行っている。 その他、教員個人単位において被災地への文具、白衣等物資の支援を行っている。

9	明治薬科大学	被災の状況（証明書類による）により、個別に対応することといたしておりますが、基本的な支援措置は次の区分のとおりです。この特別措置は、震災で被災した本学学部学生及び大学院生が経済的理由で勉学の機会を失うことがないよう、修学継続への支援（授業料減免措置の代替）として「特別見舞金」を支給するものです。下記の被災状況区分により特別見舞金を支給します。（新入生） 1種：保護者（家計支持者）の死亡等（23年度入学金、授業料及び施設設備費の全額相当額） 2種：家屋の全壊（23年度入学金、授業料及び施設設備費の全額相当額） 3種：家屋の半壊（23年度入学金、授業料及び施設設備費の半額相当額） 4種：家屋の一部損壊（23年度入学金、授業料及び施設設備費の1/3相当額） 下記の被災状況区分により特別見舞金を支給いたします。（在学生） 1種：保護者（家計支持者）の死亡等（23年度授業料、施設設備費及び教育充実費（薬学科）の全額相当額） 2種：家屋の全壊（23年度授業料、施設設備費及び教育充実費（薬学科）の全額相当額） 3種：家屋の半壊（23年度授業料、施設設備費及び教育充実費（薬学科）の半額相当額） 4種：家屋の一部損壊（23年度授業料、施設設備費及び教育充実費（薬学科）の半額相当額）	ありません。	自治体NPOを通じて合計8名の学生がボランティア活動に参加した、と大学への報告がありました。他にも報告はありませんが積極的にボランティア活動に参加した学生もおります。	大学での取り組みは、ありません。	ありません。
10	昭和大学薬学部	平成23年度前期学納金納入を平成23年度末まで猶予している。	厚生労働省のDMAT派遣要請に応じ、本学附属病院から震災当日より5日間にわたり5名の医療従事者を派遣した。また被災地が復興し、医療機関がある程度自立できるまで医療支援を実施すべく、大学独自で医療支援隊を結成した。3月17日より山田病院を拠点に医療支援活動を開始し、また山田町内で救援活動している他医療チームと連携して町内の避難所（32か所）のうち3ヶ所への往診を担当した。3月15日～4月15日の約1ヶ月の活動期間で延べ107名（うち薬剤師12名）を派遣した。	問9の回答に記載した大学独自の医療支援隊において12名の薬剤師を派遣した他、本学所属であり手話のできる薬剤師が、全国ろあ連盟の要請をうけて被災地における聴覚障害者の救援体制支援に自主的に取り組んだ。	4月より学内・附属病院内各所に募金箱を設置し、職員・学生・患者より集まった義援金を取りまとめ、6月末に赤十字へ入金する予定になっている。また学生有志が数回にわたり、大学近隣の駅などの街頭にて募金活動を行った。	
11	昭和薬科大学		実習用に設置してある散剤分包機を用いて、製薬企業等が被災地へ提供する薬品の分包をおこなった。	ボランティア部の学生数名が、宮城県の被災地で支援活動に従事した。	現在も義援金の募金活動を継続している	
12	星薬科大学	被災した学生あるいは学費支弁者への御見舞金贈呈。被災した学生に対して、被災状況に応じて学費の減免についても近日中に実施する予定。	特になし	義援金募金	特になし	
13	東京理科大学薬学部	学部全体として、組織的には取り組んでいない。被災状況の調査を実施した。申し出のあった学生への支援については、現在検討中である。	学部全体として、組織的には取り組んでいない。	学部全体として、組織的には取り組んでいない。	学部全体として、組織的には取り組んでいない。薬剤師免許及び医師免許を持つ複数の教員が、個人的活動として行っている。	
14	慶應義塾大学薬学部	(1)学納金等の減免 ①23年度受験者・入学者 ・検定料（入学者のみ対象）及び入学金 ・家計支持者の死亡等、家屋の全・半壊等、家屋の損傷⇒全額免除 ・授業料 ・家計支持者の死亡等⇒全額免除（医学部、薬学部は半期分） ・家屋の全・半壊⇒半額免除（医学部、薬学部は半期分の2分の1） ・家屋の損傷⇒減免無 ②2年次以上の在学者（地震当時は1年次以上の在学者） ・授業料の減免 ・家計支持者の死亡等で家計収入が途絶えたもの⇒全額免除 ・家屋の全・半壊⇒半額免除 (2)特別奨学金 上記減免の対象外になった者や、半額になった者の救済が目的 ・家計支持者の行方不明、家屋の全・半壊、損壊等罹災の程度により、 ・23年度の授業料の範囲内で給付。 ・上記①および②の減免措置を受けた場合、他に学費の減免措置を受けた場合は、それらを合計して授業料の範囲内で給付。 (3)入学時期の延期 ①23年度後期に延期 ・前期分のみ納入者⇒後期分に繰り越す ・1年分納入者⇒半額を後期分に繰り越し、半額を返金 ②24年度に延期 ・23年度分は返金	震災直後、薬学部の教員（医師）1名が慶應義塾大学医学部の教員医療支援活動プロジェクトに参加。	学生7名がボランティア活動に参加。	薬学部の教員（薬剤師）1名がボランティア活動に参加。	学生が独自に学部内で募金活動を実施。
15	北里大学薬学部	東日本大震災・長野県北部地震の災禍による家計急変のため、生活費及び学費の支弁が困難、又は支障をきたした在学生及び入学予定者に対し、奨学金の給付及び平成23年度学費の全部又は一部を免除又は貸与し、学生の学業が円滑に継続できるよう経済的な支援を行う。	北里大学病院・北里大学東病院医療支援チーム派遣（第一クール第一～四陣） 大船渡市職員及び他機関派遣チームとの協働による大船渡市民に対する診察活動、 診療協力、他施設への患者受け入れルートの作製など。 各回に医師3名、看護師2名、薬剤師1名、事務職1名を派遣した。	本学部5年生の有志が義援金を集めるために、募金箱の設置やチャリティー商品の販売等を計画しています。		
16	千葉大学大学院薬学研究院	・大学として給付型の学生支援金の募集があり、被災学生を紹介した。 ・同窓会から被災学生に対し支援の動きがあり、該当学生がいる旨、情報提供した。	・薬学部教員の派遣は2名であり、詳細は、 期間：3月29日～4月1日 場所：石巻市 派遣人数：1名 期間：4月14日～17日 場所：南三陸町 派遣人数：1名	・大学院生1名が4月より休学し被災地でのボランティア活動に加わっている。	・教員1名が被災地で薬剤師としてのボランティア活動に加わった。 ・医学部附属病院（薬剤師を含む）から、DMATとして数名派遣。	・義援金活動に協力している。
17	日本大学薬学部	・東日本大震災被災学生支援寄付金として教職員を対象とした募金活動 ・被災した学生を対象とした授業料等の特別措置 ・被災した学生を対象とした奨学金（桜樹奨学金）	特になし	特になし	特になし	特になし

18	東邦大学薬学部	家屋損壊の場合の学納金免除を行っている。	学校法人東邦大学として被災地からの患者さんの受入、地域医療機関の要望への対応、被災地における医療活動を行っている。法人内付属病院の支援活動としては、下記のとおり災害派遣医療チーム（DMAT）を現地に派遣した。 1. 3月12日に、東京DMATには、医師1名、看護師2名を、日本DMATには医師2名、看護師1名をそれぞれ気仙沼市、仙台市に派遣した。 2. 東京都福祉保健局の要請によって、東京都医師会と災害拠点病院から編成される医療看護班の一員として、3月23日に医師1名、看護師2名を気仙沼市に、3月29日には医師1名、看護師2人を陸前高田市にそれぞれ派遣した。 3. 東邦大学単独としては、3月18日に付属大森病院から医師1名、看護師2名を、3月21には付属佐倉病院から医師1人、看護師2人を、3月24には付属大橋病院から医師2人、看護師2人を郡山市の避難所にそれぞれ派遣した。	該当なし。	(教員1名) 3月20日から22日まで、宮城県における精神科医療施設の被災状況を調査するため、山形県から自家用車にて宮城県入りした。その際、食糧、医薬品、日用品などを可能な範囲で自家用車に積み込み、気仙沼、石巻、松島、塩釜、岩沼を3日間かけて回り、必要のある精神科医療施設に提供した。 続いて、3月30日から4月3日まで、福島県立医大精神科丹羽真一教授を中心としたこのケア医療チームに参加し、いわき市内の避難所を巡回した。いわき市保健所に医療チームの出張所を設営し、海岸沿いの勿来、小名浜、四倉地区を中心に避難所を訪問し、精神的な問題を生じている避難者及び精神疾患患者の状態を聴取し、必要に応じて医薬品の提供を行った。精神科医2名、看護師4名、薬剤師1名、その他、精神保健福祉士、臨床心理士等も加わったこのケア医療チームでは、精神科医による診察に基づいて、薬剤師による必要な医薬品の選択、提供、服薬指導等を行った。また、避難の際に持ち出した医薬品の整理や不足分の調整等も行った。避難所以外でも市営住宅で孤立していた統合失調症患者の診察と調剤、服薬指導を行った。福島第一原発から30kmほど離れた地域であったが、保健所では東京電力の職員による放射線量測定が行われており、我々のチームも数回測定を行ったが、特に異常な線量は検知されなかった。このケア医療チームでは、医療以外にも子供達に玩具や運動具などの配布も行った。	法人内の教職員に、3月14日～3月20日まで支援金を募集し、約1,200万円が集まり4月18日に日本赤十字社に送った。また、習志野キャンパス教職員組合でも募金活動を行い、5月18日に約30万円を日本赤十字社に送った。
19	城西大学薬学部	在学生、学費支弁者が居住する家屋が被災（全壊・半壊）した場合は2011年度学納金の全額免除する。また、学費支弁者に支障が生じたり、家業の破産や職を失う経済的困窮など、極めて緊急性が高く、安心して勉学が続けられる環境にないと認められる場合は、生活の支援も行う。	本学の被災学生の支援を優先している。	本学の被災学生への支援を優先している。	本学の被災学生への支援を優先している。	
20	帝京大学薬学部	本学独自の災害特別支援制度として、授業料の減免措置を検討中（全額・半額免除など）	大学としては行っていない。個人レベルでは対応有り。	大学としては行っていない。個人レベルでは対応有り。	大学としては行っていない。個人レベルでは対応有り。	大学としては行っていない。個人レベルでは対応有り。
21	静岡県立大学薬学部	被災した学生がいるかをすぐにサーチしたが、該当者はいなかった。	薬学部としては、静岡県大薬学部医療チームを組んで、薬剤師5名が震災後早期から現地に入り医療支援活動を行った。大学全体では看護師、医師、情報関連の教員等が現地入りしたと聞いている。	他学部ではボランティア学生の情報もあるが、薬学部に関してはサーチしていない。	前述のごとく薬剤師5名が現地入りし、石巻、女川等の病院や避難所で薬剤師として多くの支援を行ってきた。薬剤師5名は全て実務家教員である。	平成22年度卒業生、修了生からの記念品を義援金とした（まだ処理はしていないが近日中に処理予定）薬学部で募金活動を行った。
22	富山大学薬学部	平成23年3月25日付け文部科学省高等教育局大学振興課からの「東北地方太平洋沖地震の発生に伴う平成23年度学事日程等の取扱いについて」に基づき、薬学部教授会において、「東北地方太平洋沖地震による被災学生には、薬学部関係の全教員は、当該学生の履修科目（講義・実習等）の単位取得において、不利益とならないよう最大限に配慮し、状況に応じた特別措置を講じる」ことを決定した。	* 3月11日 DMATチーム（2チーム）を派遣【岩手県大船渡市、福島空港】 * 3月21日 富山県、東北大学の依頼により医師2名（精神科医、臨床心理士）を派遣【宮城県気仙沼市】 文部科学省、筑波大学の依頼により医師2名、事務1名を派遣【茨城県内】 * 3月28日 富山県、東北大学災害対策本部の依頼により医師等を7グループに分けて1週間交代で派遣【宮城県気仙沼市】 * 3月28日 富山県の依頼より医師1名（精神科医）を派遣【宮城県内】 * 3月29日 富山県、岩手県釜石市災害対策本部の依頼により高岡市民病院と合同で医師を派遣（富山県内公的病院の輪番）【岩手県釜石市】 * 5月25日 富山県臨床心理士会（日本臨床心理士会から要請）から人間発達科学部へ派遣要請があり、臨床心理士の資格を持つ3名の教員を交代で派遣（6月18日まで） * 5月25日 国立大学附属病院長会議の依頼により医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名を東海北陸ブロック（名古屋大学、富山大学、岐阜大学、三重大学）で輪番で派遣（本学からは7チームを派遣）【宮城県石巻地区】（8月31日まで）	平成23年4月26日開催の富山大学役員会で決定された「東日本大震災に関する学生のボランティア活動について」を受け、薬学部教授会において、「学生からボランティア活動の申請があった場合、適切な指導にあたる」ことを了承した。		平成23年4月5日開催の富山大学役員会で決定された「東北地方太平洋沖地震による被災大学学生（他大学在籍学生）への学習支援等について」を受け、薬学部教授会において、「被災大学学生（他大学在籍学生）が本学部での学習を希望した場合、可能な限り受入れて学習指導にあたる」ことを了承した。
23	金沢大学医薬保健学域薬学類			金沢大学として下記を実施。 ・参加する際は届出をし、可能な限り大学主催の研修会に参加するよう指導。 ・ボランティア保険への加入を強く指導。 ・参加学生における授業、実習、定期試験は代替措置をとる。		
24	北陸大学薬学部	・特に香が大きかった学生には被災状況により、1年間の授業料の免除及び減免措置を行った。 ・大学及び父母会から見舞金を贈った。 ・被災した学生の保護者宅や避難所を訪問し、水、食料等生活必需品の支援物資を届けた。	本学所在地の地元のドラッグストアから医薬品の提供を受け、避難所に直接届けた。		本学附属薬局の薬剤師が被災地で医療活動を行った。	問10、11の活動については、今後更に拡大して実施すべく検討中である。
25	名古屋市立大学大学院薬学研究科	大学として、以下のように行っている。 1. 被災学生等に対する支援（入学料・授業料の減免、入学手続の特例措置、科目等履修生の募集） 本学の学生・受験生の皆様に対する支援 ・後期日程入試を受験できなかった方に対する特別措置 ・入学手続きができない方に対する特別措置 ・入学料について、本人・保護者の家屋被害の程度に応じて全額又は半額減免 ・授業料について、減免の基準（成績・収入）を緩和 ・ご家族が被災された学生に対する宿舍の無償提供 ※本学留学生宿舍3室を提供（平成25年3月15日まで） 他大学の学生に対する支援 ・東海地方に避難してきた学生を科目等履修生として受入れ（入学料、授業料等は免除）	大学として、以下のように行っている。 1. 医療看護班の派遣（仙台市宮城野区へ派遣）を実施 ・第1次 3月21日から25日まで（医師1名、看護師2名、薬剤師1名、事務2名） ・第2次 3月24日から28日まで（医師1名、看護師2名、薬剤師1名、事務2名） ・第3次 3月30日から4月3日まで（医師1名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名） ・第4次 4月5日から4月9日まで（医師1名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名） ・第5次 4月11日から4月15日まで（医師1名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名） ※名古屋市民病院からも別途派遣 2. 被災された患者様の受入れ 市立大学病院において、関係機関からの要請に基づき被災された患者様を受入れ（現時点では要請なし）	なし、あるいは、大学として把握していない。	なし、あるいは、大学として把握していない。	1. 授業「薬局管理学」では被災地での薬剤師ボランティア活動の紹介。 2. 教職員・学生による義援金の募集

26	名城大学薬学部			全学的な取り組みとして次の活動を実施しています。 ・義援金の募集 ・支援物資の募集 ・外部NPO団体との連携 ・ボランティア協議会 「3万枚の奇跡」中古タオル3万枚募集活動 ・現地派遣 6/2～6/5 宮城県気仙沼市大島島内		全学的な取り組みとして次の活動を実施しています。 ・校内食堂にてチャリティーメニューの実施
27	岐阜薬科大学	学費負担者が被災し、居住家屋が全半壊するなどの損害を受けたり、震災による失業・休業などを理由に、入学科・授業料を減免します。 今回の震災では、6名、約400万円の減免額となる予定です。	・岩手県山田町の小学校内仮設診療所併設の臨時薬局において、本学社会人大学院生の薬剤師1名が、町内薬剤師と協力して医療支援。(3月14日から1週間) ・宮城県石巻市・気仙沼市などにおいて、本学社会人大学院生1名が、各地を巡回し医療支援。(3月25日から1週間)			
28	京都薬科大学	東京都以北(13都道県)に実家のある学生が16名いましたが、直接被災した学生は無く、家屋の全壊や半壊に対する届出も提出されませんでした。本学には該当する支援システムはありますが、今回は支援を行う必要はありませんでした。	なし	なし	なし	本学教員・学生有志による義援金を日本赤十字社京都支部に届けた。現在も義援金の受付を継続している。
29	京都大学大学院薬学研究科	被災した学生への支援として入学科の免除及び返還、授業料免除、学部新入生を対象に生活支援奨学金の支給等	特になし	特になし	特になし	義捐金への協力(京都大学全体でまとめているもの一部として参加)
30	大阪大学大学院薬学研究科	特になし	特になし	正確に把握していない	特になし	大学の取り組みとして ・救護物資の提供 ・義援金への協力
31	大阪薬科大学					学友会有志及び教職員有志が募金活動を行い、日本赤十字社に義援金(1,183,071円)を送金した。なお、現在も継続して募金活動を行っている。
32	近畿大学薬学部	今回の震災で本学が実施した学生支援は、下記のとおりです。 【新入生を対象とした支援】 ①入学金の免除 ②入学書類送付期限の延長 平成23年3月31日(木)消印有効 ③災害見舞金の給付 ④前期授業料等の納入期限の延長 平成23年6月30日(木)午後5時まで 【在学生を対象とした支援】 ①災害見舞金の給付 ②学生健保共済会による飲料水の提供 在学生(新入生・卒業生含む)を対象として、本学東京事務所で飲料水を提供 ※新入生、在学生とも災害見舞金は同じ基準を適用しています。例えば物的被害であれば、損害の程度にもよりますが、20万円～40万円程度の災害見舞金を給付いたします。 【その他の学生支援】 ①農学部において、被災大学の卒業研究生及び大学院学生の研究教育指導の受入れ ②水産研究所において、被災地域の大学又は研究機関の学生及び教員の受入れ ③被災された2011年新司法試験受験資格者に対する自習室(個人ブース)・法科大学院図書室等の学習環境の提供 ④被災地域から帰省や退避された大学の学生・教職員に対する中央図書館の利用環境の提供	本学が行った医療支援活動は、下記のとおりです。 【医学部・附属病院】 ①医師、看護師等による医療チームの派遣及び救護物資の提供 DMAT(災害派遣医療チーム)2チーム派遣 ・1チーム(5名)岩手花巻空港 3月12日～3月14日 ・1チーム(5名)岩手県大船渡病院 3月15日～3月18日 ②災害支援ナース(1名)気仙沼総合体育館の避難所4月7日～4月12日 ③岩手医科大学附属病院に対し、第6回にわたって下記の医薬品、救護物資を提供 (第1回)A重油16キロリットルを緊急提供 (第2回)生理食塩液500ml×1,000本、サージカルマスク30,000枚、寝袋30個を提供 (第3回)大阪医科大学との合同で、近畿大学からはレボチロキシンNa錠50μgサンド×500錠(効能:甲状腺機能低下症・粘液水腫等)、単3アルカリ乾電池800本、歯ブラシ672本、大阪医科大学からはフロセキソール錠0.5mg×100錠(効能:前立腺癌・閉経後の末期乳癌等)を提供 (第4回)兵庫医科大学との合同で、近畿大学からはレボチロキシンNa錠50μgサンド×3,000錠(効能:甲状腺機能低下症・粘液水腫等)、生理食塩液・洗浄用500ml×300本、単3アルカリ乾電池1,200本、ウエットティッシュ1,000袋、兵庫医科大学からはミネラルウォーター500ml×96本、ミネラルウォーター2L×24本、お茶500ml×48本、お茶190cc×30本、野菜ジュース160cc×30本を提供 (第5回)レボチロキシンNa錠50μgサンド3,000錠(効能:甲状腺機能低下症・粘液水腫等)、サージカルマスク 30,000枚、歯ブラシ5,088本、ミネラルウォーター(500ml)×800本、カロリーメイト600個、岩おこし(大阪銘菓)10枚×200包を提供 (第6回)レボチロキシンNa錠50μg「サンド」5,000錠、生理食塩液・洗浄用 500ml×300本、おしり拭き 70枚×180包	本学としては、学生の安全確保を最優先として、現時点では、被災地でのボランティア活動については、許可していません。現地の受け入れ態勢やNGO、NPO法人などの活動状況などを確認しながら、今後、許可について検討していく予定です。 また、被災地以外でのボランティア活動については、ご家族及びNGO、NPO法人などのボランティア実施団体に必ず事前に相談の上、活動するよう指導しています。	上記の間10と同様です。	その他の支援活動は、下記のとおりです。 【原子力研究所】 ①日本原子力学会関西支部、日本保健物理学会等の有志の方々の御協力を得て、今般の東京電力福島第一原子力発電所に係る電話相談等の受け付けを実施(11日間実施) ②福島県川俣町において、放射線量測定を実施(4月29日～5月2日) 【募金・支援金等】 ①吹奏楽部による「東日本大震災チャリティーコンサート」(5月6日開催) ②赤十字奉仕団等による募金活動(キャンパス内での各種イベント時) ③学生健保共済会 1000万円 ④教職員互助会 100万円 ⑤平成23年度 教職員賞与を原資とする支援金2億円を拠出 【その他】 ①工業高等専門学校・熊野跡地を避難場所として提供 平成23年度 教職員賞与を原資として拠出した支援金2億円は、「信頼性」、「寄付の的確性」、「透明性」、「納得性」の確保を基本方針として、被災地域、そして風評被害にあえぐ地域も含めて、教育等を含む支援を必要とする方々に対して、具体的な支援を行っていく予定です。さらに復興支援を担うボランティアの方々に対しても、その「力」が十分に発揮できるように、できるだけ支援を検討していく予定です。
33	摂南大学薬学部	・学費支弁が困難となった方を対象に、授業料等の減免等の経済的支援を実施 ・被災された学生ならびにその家族の方に対して学園の研修棟などの宿泊施設を開放		・一部の学生が現地ボランティア活動を行った。		
34	武庫川女子大学薬学部	・被災された在学生・新入生を経済的に支援するため、入学金、学費を減免する特別措置を講じる。 学費 新入生 入学金の全額、前期学費の全額あるいは半額 在学生 前期学費の全額あるいは半額 貸付金 学生援助貸付金(上限20万円) 給付奨学金 年間授業料の40%を支給 住居の斡旋 避難生活を送り、入寮を希望している新入生は入寮が始まるまでの間、本学の合宿所に受入れる。 現時点では、薬学生の該当者なし。		・震災当時、ワシントンにあるアメリカ分校に2ヶ月間留学中の薬学部の学生23名が現地で募金活動を実施した。 ・学部内で学生が組織する学友会活動の一端として義援金を募る活動を実施中。		大学(薬学部非常勤勤務)のカウンセラーがスクールカウンセラーとして岩手県の小・中学校に学校支援に約1週間現地に入る。(大阪府臨床心理士会からの依頼で個人として参加。)
35	神戸薬科大学	兵庫県内の大学が加盟している大学コンソーシアムひょうご神戸を通じて、薬学部薬学科の学生を一時的に受け入れる体制を整えている。 また、住居面での支援として、男子寮10室(10名)、女子寮19室(38名)を提供できるよう準備している。	特になし	特になし	兵庫県薬剤師会に薬剤師ボランティアとして1名登録しているが、現在、派遣日程が合わず、支援活動は実現していない。	特になし
36	神戸学院大学薬学部	調査を行いました該当者はありませんでした。	大学として、東北福祉大学との防災対策の連携を従来から行っており、今回の災害に対しては大学として予算措置をして、支援の人員を数回送り込んでいます。その後も継続の予定です。東北福祉大学を拠点に活動を行っており、薬学部の教員、学生が志願していけば公休扱いにすることになっています。特に医療支援に限定していません。	問9の活動に含まれます。	今のところ行っていません。兵庫県薬剤師会などから依頼があれば検討する予定です。	特になし。
37	岡山大学薬学部		本学(岡山大学)の医療支援チームとして、本学部実務家教員の名倉准教授が現地に向かい、約1週間ほどの支援活動を展開した。他の医療チームには、薬剤師が皆無に近かったことから、薬剤師の目から見た業務内容の多くが抽出でき、支援を実施できた。			3月17日に東北大学薬学部宛に支援物資(カップラーメン等)を運輸した。現地には、18日に到着した。現在も、義援金募集は続けている。

38	福山大学薬学部				義援活動	
39	広島大学薬学部	(大学としての取組) 入学料、授業料の免除を行っている。 学生宿舎の確保 本学図書館の利用便宜 学生の受け入れ 等	(大学としての取組) DMAT (災害派遣医療チーム)、緊急被ばく医療チーム等 による医療支援活動 等	(大学としての取組) 学生ボランティア登録窓口の設置等	(大学としての取組) 義援金募金活動 災害救援物資の支援関係 被災者用宿舎の提供準備 等	
40	徳島大学薬学部	実家が被災した学生に対する授業料免除	該当なし	・ NPO法人TICO (徳島) 及びNPO法人フェアトレード東北 (宮城) と連携して石巻市の避難所にいる方の健康状態、ニーズ等の聞き取り調査、家屋内に堆積している泥の撤去作業等に当たる学生ボランティアとして1人が参加 (4月29日～5月5日) ・ 徳島健生病院のチームに同行して塩釜市・多賀城市の避難所での医療活動の手伝い (洗濯等) に当たる学生ボランティアとして1人が参加 (5月1日～5日)	該当なし	
41	徳島文理大学薬学部	①東日本地域出身の学生は67名在籍していたが、今回の震災で負傷した学生はいなく全員無事。なお「家具の倒壊」、「家にひびが入った」、「食器破損・水害」家屋に少々の被害を受けた学生は若干名いた。 ②今回の災害で保護者が勤める会社・事業所等の業績不振で保護者の収入が相当減り、奨学金等を希望する学生が数名いる。これらの学生については「授業料減免」等を検討中。	(一部のみ掲載、別紙参照) 薬剤師の国家資格を持った教員1名が以下のように医療支援活動を行った。 ・日本薬剤師会 (徳島県薬剤師会を通じて) の要請により4月6日～4月10日 (実質3日間の活動) の報告 1. 4月6日 17:00 宮城県薬剤師会に到着。県薬幹部より状況説明。宮城県石巻市を拠点として活動。活動内容①調剤業務 (石巻高校、女川町立病院、同町立総合体育館など) ②避難所へのOTC供給と健康管理③避難所の衛生管理 (トイレや調理など) ④その他。当日現在死者12,344人行方不明者15,237人避難者163,712人。 2. 4月7日四国4名のうち1名は石巻高校での調剤業務 (約130枚/日) 他1名は女川町立病院での調剤業務 (約150枚/日) 私ともう1名は女川周辺の避難所を巡回しOTCの供給と健康相談に就く。調剤業務は該当2名の希望であったため私たちは避難所を担当することになった。石巻周辺には108箇所の避難所が確認されているが未確認 (主に個人宅を避難所としている箇所) の避難所も点在している。1日中女川周辺を巡回したが10箇所程度を回るのが限界であった。女川周辺は薬剤師の巡回もほぼ行き届き不足薬 (消毒薬、カットパン、咳止め、鼻薬、便秘薬など) を補充した。もちろん被災された住民には全て無料での提供である。口内炎や便秘を訴える人も出てきたり鼻出血する避難所生における学業管理	ボランティア活動に参加する学生については、ボランティア保険等の加入を義務付けるとともに、期限は2週間 (欠席扱いで) を限度とする。単位認定必要時数をオーバーした場合は補講とで考慮する。 現在、現地へのボランティア活動の問い合わせがあったのは1組 (2名) のみで、本学のボランティア部が主体となって義援金活動に取り組んでいる。	被害地に薬剤師を派遣できるよう徳島県薬剤師会に広報活動を行っている。	
42	九州大学大学院薬学研究院	1) 入学手続き: 入学料の納入確認や入学手続き書類の受付については、個々の合格者の事情に応じて対処。 2) 経済支援: ・災害救助法適用地域に主たる家計支持者が在住し、経済的困難を抱えている学生から申請があった場合、個々の事情を確認したうえで、下記①②を実施。また奨学金給付金の創設も検討。 ①入学料については、原則として全額免除 ②授業料については、個々の事情に応じて全額または半額免除 3) 生活支援 ・学生寮・ドミトリーの入居については、被災学生の優先入居を実施予定。 ・大学生協と連携し、伊都地区周辺のアパート (30戸程度) を、ドミトリー相当の家賃 (月3万円) で、被災学生を対象に準備。 4) 外国人留学生への支援 ・英文による情報提供: ○ホームページを通じた情報提供 留学生、外国人研究者等、協定大学、留学生の家族宛てメッセージやQ&Aを作成し、送付・本学ウェブサイト掲載。 ○外国人研究者及び留学生向けセミナー 4月18日 (月) 日本における自然災害、福島原発の現状等について、九州大学内の専門家によるセミナーを開催。外国人教員も含め計111名が参加。 ・被災地留学生の一時避難受入 信州大学に留学中の学生 (ベルギー: ルーベンカトリック大学から) 3名を、ルーベンカトリックからの依頼により、香椎浜の留学生会館に一時避難として受け入れた (現在は信州大学に帰学)。 5) メンタルヘルスケアに関する支援 ○健康科学センター及び学生生活・修学相談室 本学関係者のうち、被災された方などを対象としたメンタルヘルスケアを実施中。 ○人間環境学府附属総合臨床心理センター 被災者に対するこころのケアのための「ほっとひろば 九大」を開設。 http://www.kyushu-u.ac.jp/news/earthquake/hiroba.pdf 6) 被災地域の学生に対する附属図書館の利用許可	1) 医療関係者の派遣 ○災害派遣医療チーム (DMAT) の派遣 ・3月12～14日、医師1名、看護師2名が、宮城県霞目駐屯地において活動。 ・3月12～13日、医師1名、看護師2名、事務職員1名が、航空自衛隊春日基地板付地区 (福岡) において広域搬送拠点医療施設活動を実施。 ○医師の派遣 ・3月13日～15日、九州大学救命救急センターの医師 (特別教員) 1名が、日本医師会災害医療チームの一員として、福島県いわき市で救護活動を実施。 ・3月16日から、警察庁からの要請を受けて、助教 (基礎医学部 門法医学分野) 1名が福島県相馬市で作業。 ・4月4日から5日間、福島県立医科大学より、福島県内で避難所生活中の精神疾患患者に対する医療支援について依頼があり、九州大学病院の精神科神経科医師3名を派遣。 ・4月18日から4月22日までの5日間、医師2名、看護師1名が福島県立医科大学の支援チームの指揮下に入り、福島いわき市の避難所等における心のケアに係る医療支援を実施。 ○歯科医師派遣 ・本学歯学部 (病院歯科部門を含む。) から11名の教員を日本歯科医学会に派遣登録。(H23.3.24現在)	・被災地域での受け入れ体制が整っていない現時点では、慎重な行動を学生に要請。 ・現在、ボランティア活動に関する文部副大臣通知 (H23.4.1) を踏まえ、 ①ボランティア活動参加者の履修上の配慮 ②授業の目的と密接にかかわる場合の単位上の取り扱い ③ボランティア活動による休学の取り扱い等 ④情報提供の在り方 などについて、学務上の基本的な取扱い等を検討中。	九大病院薬剤師長より東北大学病院が調整している薬剤師ボランティアの打診があり、研究院長の許可のもと、2名の薬剤師職員が春休み期間の応募を希望した。たが、期間の調整が難航し、今回は見送ることにした。	1) 救援物資等の提供 ・薬学研究院の教員に大震災3日後の3月14日 (月) に東北大学病院職員の支援のため食糧確保の協力を要請された。薬学研究院として対応し、まずは東北大学への物資輸送方法を探り (当時は輸送ルートが自衛隊以外なしという状況であった)、杏林大学経由で西濃運輸仙台支局止めならば可能であることを見出した。そこでその経路を利用して、とりあえず米20Kg と缶詰を西濃運輸仙台支局に送った。東北大学病院から西濃運輸仙台支局まで緊急車両を出していただき、無事に物資が病院に到着した。 2) 義援金 3月14日 (月) に薬学研究院で義援金の募集を決定した。その後、薬学研究院がある馬出キャンパスで医学・歯学研究院と共同歩調を取ることにし、募金は赤十字社にお願いして現地へ届けていただくこととした。
43	福岡大学薬学部	震災発生後、ただちに被災地に帰省先がある学生、あるいは就職活動等のために東北・関東地方にいた学生について、安否の確認を行った。(被災者はなし。)	震災直後、附属の両病院より医師や看護師を被災地へ派遣。現在も要請に対応できる態勢を整えている。	学内に東日本大震災支援対策本部を設置し、学生から災害ボランティア「福岡大学派遣隊」を募集、夏季休暇期間の活動に向けて準備を進めている。	薬剤師会からの要請を受け、薬学部の実務家教員2名が被災地で救援活動を実施。また、薬学部教員2名が被災地の病院に赴き、診療活動を行った。	
44	第一薬科大学				学内で義援金をあつめ、日赤を介して送金しました。	

45	熊本大学薬学部	<p>熊本大学附属図書館では、関東・東北地方の大学に在学中の学生及び入学予定者で、緊急帰省等、震災のために熊本県（近隣）に滞在せざるを得なくなった方を対象に、本学学生と同等のサービスを利用できるようにいたします。</p> <p>◆ 詳細は図書館ホームページをご覧ください。 http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news.html</p> <p>平成23年度前期分の授業料免除申請期限は在学生においては既に終了しておりますが、学費負担者が死亡し、また学生若しくは学費負担者が風水害等の災害を受けたことにより授業料の納入が著しく困難であると認められる場合には、納入期限まで個別に申請を受け付けています。このたびの東北地方太平洋沖地震で被災された方は、学務ユニット経済支援担当までご連絡ください。</p> <p>なお、日本学生支援機構奨学金については、緊急・応急採用の申請を受けています。</p>	<p>政府の要請に応じて、3月18日から、8次にわたり災害医療支援チームを派遣し、宮城県石巻市石巻赤十字病院での医療活動及び牡鹿半島の避難所を中心とした巡回診療活動を行ってきました。しかし、現地での交通環境の改善や石巻赤十字病院の業務が平常化されてきたことなど、災害医療支援チームの必要性が低下してきました。このため、第8次を最後に災害医療支援チームを撤収することといたしました。</p> <p>なお、今後とも医療支援の要請に応じて、附属病院、診療科、専門学会など、様々な組織での支援を行う予定です。</p> <p>■第1次 医師2名、看護師2名、事務職員2名（3月18日～3月22日） ■第2次 医師2名、看護師2名、技師1名、事務職員1名（3月21日～3月25日） ■第3次 医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務職員1名（3月24日～3月28日） ■第4次 医師3名、看護師2名、技師1名、事務職員1名（3月27日～4月1日） ■第5次 医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務職員1名（3月30日～4月4日） ■第6次 医師2名、看護師2名、技師1名、事務職員1名（4月2日～4月7日） ■第7次 医師2名、看護師2名、薬剤師1名、事務職員1名（4月5日～4月10日） ■第8次 医師2名、看護師1名、事務職員1名（4月9日～4月13日）</p> <p>国立大学協会の要請に応じて、食料、飲料、生活用品等の救援物資（約4トン）を3月23日に九州大学へ発送しました。九州大学では、九州内の国立大学の救援物資を取りまとめ、3月25日に鹿児島大学の練習船で被災地の国立大学へ輸送しました</p>	募金活動	特にありません	特にありません
46	長崎大学薬学部		<p>本学の遠野拠点支援活動として、教員1名を3月23日から3月30日までの間、岩手県遠野市大槌町に派遣し、避難所内の救護所において薬剤師活動を行った。</p>			
47	就実大学薬学部	該当無し	<p>実務家教員1名がJMATおかやまの薬剤師として石巻圏エリア7の漢小學校救護所にて薬剤師活動を行った（5/29-6/2）。</p> <p>震災発生11週間後の活動</p> <p>支援を行った実務家教員はJMATおかやまの薬剤師として石巻に派遣された。震災から2ヶ月が経過するが、未だ石巻赤十字の救急受診患者数は震災前よりも多い。現在の課題は、救護所からの避難者の自立だが、地元の医療提供体制が整備されていないジレンマがあり医療チームが撤収できずにいる。さらに、回復が著しい地域と遅れている地域が二極化している。例えば、北上地区や雄勝地区は無医村状態となっており、救急搬送に90分を要している。</p> <p>災害医療では通常2週間ほどで救護所の撤退が始まるが、今回の未曾有の震災では未だ救急受診が震災前のレベルに至っていないため、撤退ができない。しかし、避難所からの被災者の自立を促すために、震災前よりも手厚い医療サービスを提供しない方針での医療提供であった。救護所の処方、救護所の在庫医薬品で対応し、長期投与が必要な患者は院外処方箋を発行する。その際、薬剤師は医師の了承のもとに処方箋の同種同効薬への変更調剤を行った。</p>	学生会が義援金の募金活動を行った	<p>実務家教員1名が、日本薬剤師会の薬剤師ボランティアに登録して3/25-30および4/22-27に石巻にて薬剤師班として医療活動をおこなった。</p> <p>震災発生2週間後の活動（3/25-30）</p> <p>被災地では、未だライフラインが整っておらず、救護体制の構築が急務であった。3/20に石巻赤十字病院の石井医師が中心となり石巻圏合同救護チームが発足した。本学では実務家教員1名が日本薬剤師会のボランティアに登録し3/25より被災地に向けて出発した。おりしも、3/25は厚生労働大臣より日本薬剤師会に対して被災地への薬剤師派遣の正式要請があった日である。現地では石巻赤十字病院薬剤部での調剤、避難所を医師とペアを組んで巡回し、被災者の津波によって遺失した服用薬の聞き取り調査及び調剤を行った。</p> <p>震災発生6週間後の活動（4/22-27）</p> <p>震災により閉鎖していた医療機関が再開しはじめ、医療提供体制も徐々に整いつつあった。派遣された実務家教員は、雄勝地区、牡鹿半島地区において小規模避難所のセルフメディケーション推進活動を行った。薬剤師は2人1組で避難所のOTCニーズを聞き取り、OTCの指導及び衛生状態のアセスメントを行った。</p>	7月に文部科学省の依頼により、薬学部教員でチームを結成して福島県の放射線量モニターボランティアに参加する予定である。
48	九州保健福祉大学薬学部	授業料免除		学生1名が個人的にボランティアを行う。	<p>3月29日より4月2日までの5日間、宮城県宮城郡七ヶ浜町において宮城県医師会災害支援医療チーム（宮崎JMAT）の薬剤師として本学、徳永仁准教授が活動にあたっている。徳永准教授が活動したチームは、本学実務実習生の受け入れ先でもある善仁会病院を主体とする第4隊宮崎JMATチームである。七ヶ浜町における支援場所は松が浜小学校体育館であり、体育館ステージ横の倉庫が診察室兼薬局であった。3月29日現在での松が浜地区避難者は約200名（第4隊最終日は160名）、ライフラインは電気のみ、ガス・上下水道は依然まだの状況であった。薬剤師としての現地での活動は、まず、医薬品の分類、段ボール製の手作り調剤棚への補充、在庫管理、そしてすべての医薬品リスト（簡単な用法・用量、棚番号つき）の作成である。日中の薬剤師業務としては、診察室での医師との同行により、診療支援（体温・血圧・SpO2測定など）から処方支援（処方箋の絞り込み、代替薬の有無、用法・用量の情報提供など）、診療カルテによる調剤（計数調剤のみ）、薬袋作成、薬剤管理指導記録の作成（実際にはノートへの名前、性別、年齢、医薬品名、用法・用量の記載のみ）、服薬指導（診察室の場合と体育館内での配達2パターンあり）である。患者の症状のほとんどは風邪、不眠、発熱、尋麻疹、目が痒い、腰が痛いなどの訴えであり、喘息症状、高血圧、インフルエンザなども見られた。このほかの薬剤師業務としては、宮城県庁への医薬品の発注、無償提供一般用・医療用医薬品の選択・管理、冷所医薬品でありながら冷所に保存されていなかったなど医薬品などの安定性の情報収集とその冷所管理、災害対応緊急薬袋の確保、持参された薬の鑑別業務、消毒法の情報提供などであった。朝6時起床（宿泊は体育館診察室上の2階倉庫）、消灯時間は21時（診察室のみ22時）であったが、実際には診療所常駐ということで24時間体制での活動であった。</p>	<p>・支援物資をつのり、いわき市と姉妹都市である延岡市経由で郵送</p> <p>・教職員、学生よりの義援金100万円を、宮崎日々新聞を介して送る（4/20）</p>
49	青森大学薬学部	<p>①授業料半免あるいは全免（被害の程度による） ②見舞金として図書券の進呈 ③教員有志による募金 → 被災学生へ ④学生有志による募金活動（学内および市内） → 被災学生&日本赤十字へ</p>	<p>大学としての活動はなし。ただし、丁度、実務実習Ⅲ期で被災地の病院・薬局に出ている学生が医療支援活動を行い、非常に感謝されるということがあった。</p>			
50	武蔵野大学薬学部	<p>・家屋の災害状況及び学費負担者の被害状況において、平成23年度前期納付金（授業料、施設設備資金等）の全額または一部相当額を給付金として支給。</p>	<p>・病院薬剤師会による災害地域への医薬品援助に協力、本学では散剤の分包を担当、7500包を作成し発送した。</p>			被災学生支援寄付金の募集を実施

51	帝京平成大学薬学部	1. 家屋全壊の場合、授業料全額免除（1年間） 2. 半壊は半額免除（1年間） 3. 親が過労により脳出血を起こしたケースがあり、現在支援について検討中。 4. その他、原発関連についても2名あるが、過去に例がないため検討中である。	組織的には実施しなかった。	1. 学生一名が、本人所属の組織を介して現地にボランティアとして活動した。 2. 現地への医薬品輸送に必要な仕分け作業などに参加した者がいた。	なし。	教職員、学生を対象に義援金の募金を行った。
52	城西国際大学薬学部	・学生支援相談窓口を開設し、災害救助法適用地域で被災された学生を対象に「緊急特別支援制度」を実施している。 1. 学費支弁者が居住する家屋が被災（全壊・半壊）した場合新入生（1年生）は、入学金、2011年度の授業料、施設設備費、諸会費の全額免除。2年生以上は、2011年度の授業料、施設設備費、諸会費の全額免除。 2. 被災により学費支弁者に支障が生じたり、家業の破産や職を失う経済的困窮など、極めて緊急性が高く、安心して勉学が続けられる環境にないと認められる場合には、校内での審査を経て、学校法人城西大学が創設する「被災学生生活支援基金」より生活支援を適用する。	以下にも述べるが、薬剤師活動がメインである。 実務家教員を中心に教員ボランティアが、被災地の有病者に対する調剤、薬剤交付、患者説明活動を千葉県薬剤師会との協力の下に行っている。	県内の災害物資供給施設において、供給物資の仕分けや分別および積み込みなどにボランティアとして従事している。	実務家教員を中心に教員ボランティアが、被災地の有病者に対する調剤、薬剤交付、患者説明活動を千葉県薬剤師会との協力の下に行っている。	学内における被災地への各種寄付活動および支援学生に対する寄付などに参画している。
53	千葉科学大学薬学部	幸い、震災直後に行った学生の安否確認により学生全員の無事を確認でき、まずは一安心であった。現在は東北の被災した学生には、入学金免除および授業料免除を実施している。	千葉科学大学には、危機管理学部もあること、さらに薬学部には薬剤師・医師等の職員が在籍していることを踏まえて、夏休みには被災地への医療支援活動を検討している。	近傍の旭市で津波による被害が甚大であったために、3月20日から学生、教員によるボランティアを実施している。さらに夏休み等を利用したボランティアを現在募集中である。		
54	日本薬科大学	1 入学手続きの締め切りを延期した。 2 被災の状況に応じ授業料の減免を実施した。 3 学生支援機構の第1種及び第2種奨学金の緊急採用及び応急採用を紹介した。	被災民が集団移転してきた「さいたまスーパーアリーナ」でさいたま市薬剤師会が実施している医療支援活動に本学教員が引率した本学の薬学生（5年生）が参加し、薬剤業務を補助した。活動規模（期間7日間 学生2～3名/日）	学生有志による自主的活動 活動規模（期間1週間 学生3名 仙台市～岩手県）	さいたま市薬剤師会の「さいたまスーパーアリーナ」での医療支援活動に教員（薬剤師免許保有者）が参加した。 活動規模（期間7日 教員1名）	日本赤十字社等への義援金（入学式前後における新入学生と保護者、在学生、教職員からの全学での募金活動、さらに継続的な募金活動として教職員を主体とした募金活動を続けている。）
55	広島国際大学薬学部		実務家教員（講師1名）が広島県医師会の要請により医療チームの一員として、3月末に宮城県石巻市において医療支援活動に従事。 実務家教員（講師1名）が広島県薬剤師会の要請により医療チームの一員として、5月ゴールデンウィークに宮城県石巻市において医療支援活動に従事した。	学生が主体となり学位記授与式と入学宣誓式において募金活動を実施。 集まった募金は、日本赤十字を通して被災地へ送付。		学校法人常翔学園として募金活動と学用品の送付活動を実施。卒業生、保護者、学生、教職員から集まった募金は日本赤十字を通して被災地へ送付。
56	徳島文理大学香川薬学部	本人や保護者が直接、被害を受けた学生はいないが、保護者の勤務状況に影響が出ている学生がいる。影響の程度を考慮し、支援の内容を検討中である。				被災者支援募金活動を実施した。教員の募金は日本赤十字社を通じて、また、学生ボランティアが集めた募金は、読売新聞社を通じて寄付した。
57	奥羽大学薬学部	①今年度の授業料を被害に応じて減免・延納しました。 被害の程度 減免額 薬学部 家屋の全壊、もしくは授業料負担者の死亡・行方不明の学生は全額免除（11名） 家屋の半壊した学生は半額免除（9名） この他に居住の被害による授業料の延納申請者 10名 ②各種災害時特別奨学金への応募を支援しました。	本学（福島県郡山市）自体が被災地区にあり、支援活動は市内で行いました。浜通り（太平洋側）より、郡山市ビックパレットに1000人以上が避難していましたが、薬剤師会の要請を受けて、薬学部教員（薬剤師）が、出向いて調剤業務を支援しました。また、薬学部教員（医師）は附属病院等で避難者を診療し、支援しました。	ゴールデンウィークと土・日曜日を利用して、被災した地域の避難所等でボランティア活動を行った。	薬剤師の資格を有する薬学部教員が避難所の救護所において、調剤業務等のボランティア活動等を行った。	郡山保健所から東日本大震災の翌週に、ヨウ素剤の容器として使用するプラスチックチューブの供出要請がありました。その時期は原子力発電所の事故で、放射性ヨウ素が大量に拡散する危険性がありました。放射性ヨウ素は甲状腺癌の原因物質で、癌を予防するにはヨウ素剤を事前に服用する必要があります。本学の歯学部と薬学部から約千本のプラスチックチューブが保健所に提供されました。
58	国際医療福祉大学薬学部	チューターからの安否確認、授業開始を遅らせ、長期欠席者への配慮、学納金の納期等配慮、グループ内義援金収集による学生への配分、短期貸付金制度（無利子）の実施など。	まずは同地域に附属病院、介護保険施設等多くの医療福祉施設を有しており、大学よりも被災状況が甚大であったため、各学科より専門士が多く活動した。岩手県陸前高田市への医療看護班（グループ内）に大学より2名の薬剤師を派遣した。	地元避難所、瓦礫撤去、街頭募金、物資提供、大学関連病院、施設応援等、4/7まで延べ1200名参加、週末、本学被災により亡くなった学生（1名他学科）の地元岩沼市に週末ボランティア（毎週）	問9と重複するが、陸前高田市への医療看護（4/24～4/28） 同地域（被災地）・附属・関連施設での薬剤師業務対応	ほぼ問9～11に記載。
59	金城学院大学薬学部	該当はありません。	岡田和史教授が、3月25日～29日まで気仙沼市で臨床心理士として医療支援活動に参加されました。	該当はありません。	該当はありません。	
60	愛知学院大学薬学部	大学として被害があった地域の保護者宛に、被害状況を報告して頂く様通知を出した。又、大学HPにも掲載した。罹災証明を提出したものについては、大学対策本部にて、見舞金や学納金免除、奨学金による援助を行う。なお薬学部学生では提出者はいない。		・薬学部学生有志による、街頭での義援金活動。 ・現地での支援活動（薬学部生2名）		学内教職員からの義援金
61	同志社女子大学薬学部	・学費減免 ・見舞金 ・カウンセリング対応	なし	・義援金活動	なし	なし
62	崇城大学薬学部					大学の義援金募金活動とは別に、震災直後に本学薬学部学生自治会が中心となって学内で支援物資の収集を行い、地域のボランティア団体を通じて物資を送り届けた。
63	横浜薬科大学	1 学費減免措置の実施 2 学費納入時期の猶予等弾力的な取扱い 3 心的ストレスを抱える学生へのカウンセラーによるメンタルヘルス		神奈川県薬剤師会の要請により被災地に医薬品や衛生用品などの支援物資を海上輸送するための支援物資の仕分け、荷造り作業に従事した。（3月19日、20日 金沢材木埠頭 参加人員93名）	同上（参加人員18名）	要請があれば可能な限り対応の予定です。
64	高崎健康福祉大学薬学部	<入学予定者> 家屋に甚大な被害を受けられた方には、平成23年度学納金の全額（入学金を除く）を免除いたします。また、被害の状況に応じて、平成23年度学納金（入学金を除く）を減免いたします。既に平成23年度学納金を納付済みの方には、減免額に応じて、これを返金いたします。平成23年度学納金の納付につきましては、通常の期間を延長するなど、柔軟な対応をいたします。薬学部では該当者なし <在学生> 家屋に甚大な被害を受けられた方には、平成23年度学納金の全額を免除いたします。また、被害の状況に応じて、平成23年度学納金を減免いたします。平成23年度学納金の納付につきましては、通常の期間を延長するなど、柔軟な対応をいたします。薬学部では該当者1名（学納金全額免除）なお、本学学生会（学生自治組織）からも、被災した学生には一律の義援金が渡されます。	なし	3月18日～19日にJR高崎駅にて社会福祉学科の有志が義援金の募金活動を実施しました。震災が発生して1週間目という時期だったので、たくさんの方が賛同して善意の義援金が寄せられました。募金をしていただいた方の思いが学生にも伝わり、参加した学生たちの心も一つになって活動に取り組むことができました。義援金は2日間合計で713,527円になり、日本赤十字社群馬県支部に直接、お持ちしました。	群馬県薬剤師会が組織する支援活動（福島県相馬市）に2名参加した 派遣日程：6月24日～6月26日 派遣場所：相馬市保健センター 業務内容：医薬品在庫の仕分け、整理、管理、手配、JMATへの薬剤師としての参加や避難所巡回における医療用医薬品の調剤補助および医薬品の説明・相談など	なし
65	松山大学薬学部	問8～問12に関しまして、本学部としては特に該当することはございません。				

66	長崎国際大学薬学部	なし	なし	全学的に細田教授を委員長としてボランティアセンターを立ち上げて活動呼びかけ、その結果41名の学生と13名の教員とで活動のための組織ができた。 活動としては、佐世保市が開設した被災者のための居住家屋への応援活動を計画していたが、現在のところ計画が未実施のため活動はなされていない。	なし	街頭募金を2回実施している。
67	大阪大谷大学薬学部					
68	岩手医科大学薬学部	問8～12については本学ホームページのトップにてご紹介しております。小川彰学長による「3.11大震災からの再生（2011年5月12日 日本記者クラブ記者会見）」についても掲載しておりますので、お目通し頂ければ幸いです。 (http://www.iwate-med.ac.jp/)	同左	同左	同左	同左
69	いわき明星大学薬学部	学納金の減免、見舞金の支給 専門家によるカウンセリング チューターによる被災学生に対する個別指導	実務系教員により地元での医療支援活動を行った。	個別に対応している。	実務系教員により地元での医療支援活動を行った。	
70	安田女子大学薬学部		薬学部の教員（医師）1名が広島県医師会の要請で、現地における医療支援活動に参加した。			学内で行われた募金活動に薬学部の教員も個人として参加した。
71	兵庫医療大学薬学部	石巻出身の薬学部1年生1名について、本年度1年間の学費免除を実施。	・学校法人兵庫医科大学として、東日本大震災発生に際してDMAT（A班、B班）及び救護医療チームを派遣し医療支援活動を行った。	本学としては、これからの夏季休暇等を利用したボランティアに参加できるよう環境を整えて、学生に参加を呼び掛ける予定。	本学教員（実務家薬剤師）がJICA、AMDAIに参画し、東日本大震災においてボランティアとして平成23年3月17日～23日まで岩手県釜石市大槌町にて医療支援活動を行った。また、別の本学教員は、大阪府薬剤師会の派遣で5月4日～8日迄の間、岩手県釜石市及び大槌町にて医療支援活動を行った。	薬学部のほか本学としては、看護学部で本学教授が被災地の現地視察や講演活動を、また本学助教が5月2日～4日、総合医療を行っている「アイプロジェクト」の活動としてハンドトリートメントなどの医療支援を行った。 また大学全体としては、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部関連の被災学生を編入学生として受け入れる体制を整えている。
72	姫路獨協大学薬学部	福島県下からの学生の保護者の住居が、第一原発から30km圏内にあり、両親と祖母が学生がいる姫路に避難している。大学では当該学生に対し授業料免除する措置をとった。また、学部で両親の職場を紹介した。	准教授1名（薬剤師）が近々に現地の支援活動に参加する。			義援金を大学経由で出している。
73	立命館大学薬学部	この度の災害で被災された方を対象とした奨学金等の経済支援制度は、以下のとおり。 【給付制】 ①非常災害による修学困難者に対する立命館大学学費減免 災害により保証人が死亡された方・重傷となった方および、家屋の消失もしくは損壊により引き続き同家屋に居住が困難となった方が対象。 ②立命館大学父母教育後援会修学援助奨学金（学部生のみ） 学費負担者である父母または保証人の方が死亡された方が対象。 ③立命館大学父母教育後援会家計急変奨学金（災害対応枠）（学部生のみ） 災害により家計が急変された方が対象。 ④立命館大学父母教育後援会災害見舞金（学部生のみ） 災害により被害にあわれた方が対象。 ⑤民間財団奨学金（学校推薦群・給付型）＜被災学生支援枠＞ （学部生・大学院修士課程） 東日本大震災により被害にあわれた方が対象。 【貸与制】 a) 日本学生支援機構奨学金 b) 立命館大学学生生活援助金 一時的な生活費を貸与（上限10万円）。	特になし	学生オフィス、サービスラーニングセンター（＝ボランティアセンター、以下同様）が相談窓口となり活動を支援している。 学生オフィス、サービスラーニングセンターを中心に「立命館大学震災支援活動情報ネットワーク『311+rnet』」を構成し、震災ボランティアに関するリソースセンターとして、「被災地の方々を支援するボランティアをしたい」という学生のみなさんからの様々な相談を受け付けている。	特になし	東日本大震災における対外的な支援要請の窓口や、学生・教職員の支援活動をサポートすることを目的とした「災害復興支援室」を設置した。 ■具体的活動内容 ・学内外の情報のとりまとめ （1）立命館としての災害発生時の支援の方針づくり （2）立命館の教育・研究の到達点を踏まえた支援のための学内資源の把握 （3）学生・生徒・児童、教職員からの災害支援に向けた提言の取りまとめ （4）関連機関・自治体、他大学の取り組み状況や本学への支援要請の把握 ・対外的支援要請の窓口、学生・教職員の支援活動のサポート （1）他大学など外部からの支援要請への対応 （2）学生・教職員による「東日本大震災」復興支援活動のサポート ・Web上における学内外への情報提供や交流サイトの構築 ・現地状況を共有する学習会・意見交換会の開催 （3）支援活動につながる研究活動に対する支援 （4）立命館としての復興・支援活動の検討とその支援
74	鈴鹿医療科学大学薬学部	被災した薬学部生はいませんでした。大学他学部においては、おりました。その学生に対しては、授業料の減額処置を実施しました。	なし	個人単位でボランティア活動に参加し、支援金募集活動をしました。	なし	なし